

新規の「箱物」は造らない 造る場合はその分減らす 「公共施設更新問題」で議員勉強会

上越市議会では、定例議会のない月には、視察や各種会議の報告などを行う議員懇談会とともに市内外から講師を招いての勉強会を行っています。

8月25日の勉強会では、神奈川県秦野市公共施設マネジメント課長・志村高史さんを招いて、公共施設の更新問題について学びました。

主題は、人口減少が続く中で公共施設をどうしていくのかという問題です。高度成長期やバブル期に建設された多くの公共施設が間もなく更新時期を迎えます。

志村氏は、今後の人口減少のもとでは今の公共施設の量(数)を維持し続けることは不可能との見地から、次のことを提言しました。

- ①新規の公共施設(箱物)は建設しない。
- ②どうしても建設する場合は、他の施設の更新を同じ面積だけ取りやめる。
- ③公共施設白書を作り、利用者・行政それぞれに都合の悪い情報も包み隠さずすべて見せる。

また、上越市のデータも分析して、市民一人あたりの公共施設の面積を示し、「上越市もこれから過剰になる」と指摘しました。

講演の内容をそのまま鵜呑みにすることはできませんが、上越市にはこれから多くの箱物の建設計画があるだけに、この勉強会で学んだ視点を今後の政策提言に生かしていくことが重要です。



要支援者の避難には近隣市民の手も



「福祉避難所」の段ボール製簡易ベッド



「月影の郷」に“避難”した市民



話題のドローンも展示

緊迫感あふれる 水難救助訓練など 浦川原区で総合防災訓練

8月27日、浦川原区を会場に、市の総合防災訓練が行われました。

今回の訓練は、上越市東部での大雨に伴って、浦川原区内に土砂災害警戒情報が発表され、市が事前行動計画(タイムライン)に基づく避難勧告を発表したとの想定によって、住民の避難や川での水難救助などが行われました。

水難救助訓練は、折からの雨で保倉川が濁った水で増水している中で、実際に水の中に取り残された人を救助するという緊迫感あふれる訓練となりました。

はじめは、はしご車での救助です。はしごを長く伸ばし、さらに短いはしごを架けわたして助け出しました。次はロープによる救助です。左岸から射出銃で対岸に

ロープを発射して、両岸で固定したロープを伝って消防職員が取り残された人を救助しました。

住民の避難訓練では、避難行動要支援者を、近隣の人たちが車いすやリヤカーなどを使って手助けして避難所に避難しました。

介護老人保健施設「保倉の里」に設けられた避難所は「福祉避難所」と表示され、中には段ボール製の仕切りや、5分で組み立てられる簡易ベッドが準備されていました。現在研究中の「福祉避難所」は、実際上の機能が発揮できるよう、今後整備していくとのことです。

月影地区では、宿泊体験のできる施設「月影の郷」を活用し、近くの住民が次々にマイクロバスで避難して宿泊室などに入りました。



水難救助訓練は、増水した保倉川で実際に水中から救助



日本共産党上越市議員団ニュース

No. 513 2016年9月4日

- | | | | |
|---|--------|---------------|----------|
| 連 | 橋爪 法一 | 090-5392-1961 | (吉川区代石) |
| 絡 | 橋本 正幸 | 080-1980-9855 | (三和区鴨井) |
| 先 | 上野 公悦 | 090-7260-9407 | (頸城区中柳町) |
| | 平良木 哲也 | 090-1808-6919 | (上中田) |